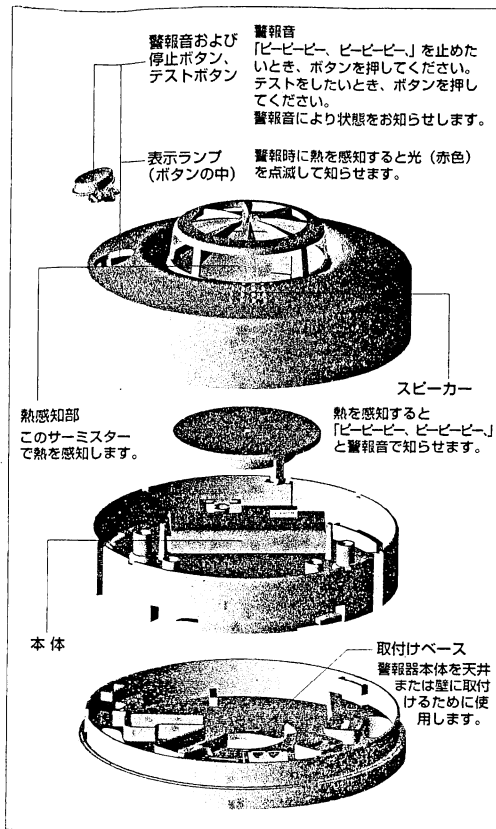


8 各部の名称と働き

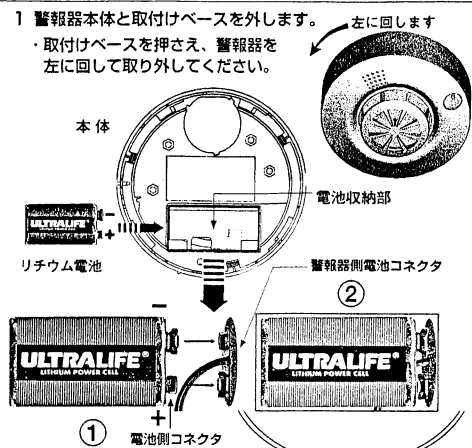


9 商品のご確認

次のものが揃っているかを必ずご確認ください。

1. 警報器本体
2. 取付けベース
3. 取付けネジ (2本)
4. 取扱説明書 (本書)
5. リチウム電池 (1個) ※電池は必ず付属のものをお使いください。

10 警報器を取り付ける前に



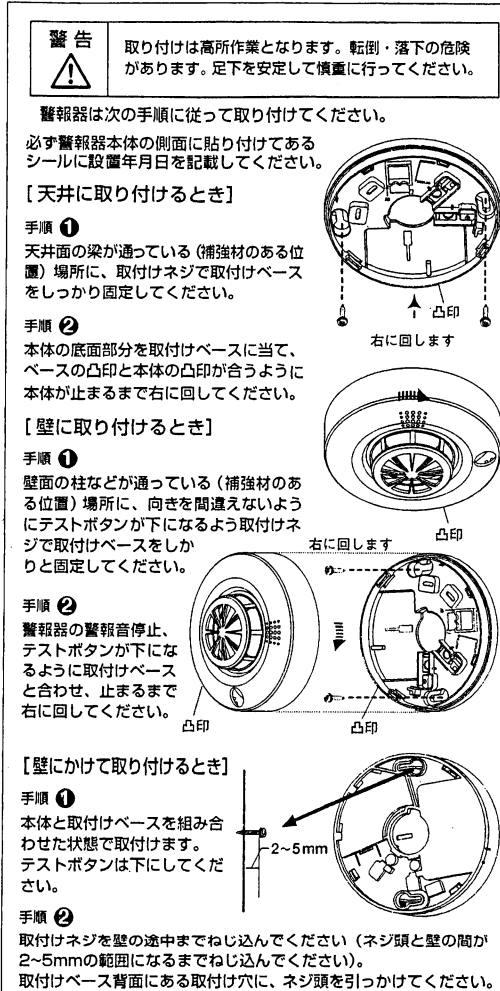
	電池は必ず指定の付属のものをお使いください。(付属以外のものを使用すると、故障の原因になります。)
	コネクタをしっかりと接続し、電池を正しく収納してください。正しく収納されていない場合、警報器が作動せず、警報音が鳴りません。(電池を取り付けた後は、必ずテストボタンを押して作動確認を行ってください。)
	電池が正しく取り付けられていない時は、警報器が機器異常モード(約35秒間隔で、ピピピと繰り返す鳴り)になります。この様な場合、電池を抜き取り、10秒間以上待ってから電池を再挿入して下さい。その後テストボタンで正常に作動している事を確認の上、ご使用ください。

■電池切れの機器交換の目安は約10年です。
・電池切れの時は約10秒に1回「ピ」と鳴り同期で光も点滅、警報音が停止した後も光 (赤色) は電池が切れるまで約10秒間隔で点滅します。
・本機器側面のシールに記入の取付け日を目安にしてください。
※ 機器交換の目安は約10年ですが、屋内の温度や湿度、ホコリなどの環境によって使用期間が短くなる場合があります。

保証規定

- 1 保証期間は、お買い上げ日から1年間です。
- 2 通常のお取り扱いにおいて、保証期間内に万一故障した場合の修理は無償です。
- 3 保証期間内においても、次のような場合は修理は有料となります。
 - 1) お取り扱いの誤りによる故障または損傷
 - 2) 不適当な改造や修理による故障または損傷
 - 3) お取引後の輸送、移動、衝撃による故障または損傷
 - 4) 水害地震落雷など天災による損傷
 - 5) 保証書の紛失、またはご提示のない場合
 - 6) 保証書の所定事項の記載漏れ、または字句を書き換えられた場合
- 4 保証期間が経過したとき、または保証の適用除外故障でも修理が可能な場合は修理いたします。この場合は実費負担となります。

11 警報器の取り付け方法



日本消防検定協会 鑑定合格品

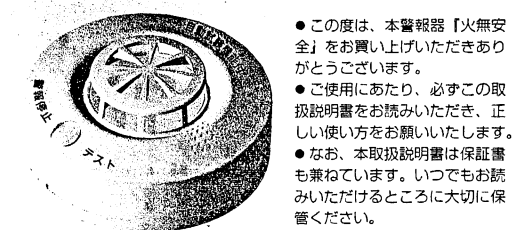
MAX

自動試験機能付
定温式 住宅用火災警報器 (屋内専用)

かないあんぜん

熱式 KK-DH40-10

電池式10年タイプ



- この商品は、初期火災時の熱をキャッチし、ただちに警報音で知らせる住宅用火災警報器です。お取付けいただいた部屋、廊下などの屋内の部分的な警戒になります。
- 万一の火災に備えて、特に台所などのガスや電熱器を使用している場所にお取付けいただくことでより効果があります。
- この商品は警報機能をもっていますが火災防止器ではありません。火災などによる損害については責任を負い兼ねます。
- この警報器は日本消防検定協会の試験に合格した鑑定品です。(ただし、消防法に規定された「自動火災報知設備」には代用できません)

保証書

製品番号	KK-DH40-10		
保証期間	本体 1 年間		
お買い上げ日	年	月	日
お客様	ご住所		
お名前	様		
電話	()		
販売店	住所・店名		
電話	()		

MAX マックス株式会社

本社 〒103-8502 東京都中央区日本橋箱崎町6-6

- 東京 TEL(03) 3669-8123 (代) 大阪 TEL(06) 4803-1536 (代)
名古屋 TEL(052) 935-8531 (代) 福岡 TEL(092) 411-5418 (代)
広島 TEL(082) 291-6331 (代) 札幌 TEL(011) 261-7141 (代)
仙台 TEL(022) 216-4121 (代)
ホームページアドレス <http://www.max-ld.co.jp>

アフターサービスについて

- 1 この商品には保証書(取扱説明書)が付いています。お買い上げの販売店でする事項の記入及び記載内容をご確認のうえ、大切に保管してください。
- 2 保証期間はお買い上げ日より1年間です。万一故障した場合は内部機構をさわらずにお買い上げの販売店に修理をお申し付けください。保証規定により修理致します。
- 3 アフターサービスについてご不明の点、その他当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げの販売店、または下記マックス株式会社 フリーダイヤル 0120-228-481 までご連絡ください。

警報器廃棄について

この商品を廃棄する際は、市区町村によって定められたルールに従ってください。(電池はリチウム電池を使用しており、水銀は含まれていません。)

* 電池交換期限は使用温度やホコリなどの外部環境によって短くなる場合があります。
* 仕様及び外観は改良のため予告なしに変更することがあります。

1 安全上の概要

この取扱説明書の中で使用している「警告」「注意表示」などの基準は、以下の通りです。

	警告 誤った取り扱いをした時、取扱い関係者が重傷を負うかまたは死に至る危険性が高いと想定される場合を表しています。または警報機能の一部に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合を示しています。
	注意 誤った取り扱いをした時、取扱い関係者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合を表しています。または警報機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合を示しています。

2-1 特徴と使用上の注意

1 本警報器は、初期火災で発生する熱を素早くキャッチし、警報音と光（赤色）で知らせる住宅用火災警報器です。火災発生の際には「ピーピーピー」（約4秒間隔）という鋭い警報音と警報音にあわせて光（赤色）の点滅で火災の危険を知らせます。

■ この警報器は火災の熱を感じて警報音を発しますが、感知部（サーミスター）で感知できない場合は作動しません。また、次のような場合は火災を感知できない恐れがあります。

- 火のまわりの早い火災
- 薬品火災、電気火災、それらに伴う爆発的な火災
- 熱の発生しない火災

■ この警報器は、お取り付けいただいた場所近くでの火災の熱には作動して火災警報をお知らせしますが、他の部屋などで発生した火災の熱には警報を発生しないことがあります。

2 警報器の機器交換は機器異常警報音でお知らせします。機器異常警報音「ビビビ」（約35秒間隔）及び同期の光（赤色）の点滅した時は必ず機器交換をしてください。

3 電池切れの機器交換の目安は約10年。

■ 電池切れの時は約10秒に1回「ピ」と鳴り同期で光も点滅、警報音が停止した後も光（赤色）は電池が切れるまで約10秒間隔で点滅します。

■ 本警報器は、電池で作動しています。約10年間の機器交換の目安まで電池交換なしでご利用いただけます。

※ 機器交換の目安は約10年ですが、屋内の温度や湿度、ホコリなどの環境によって使用期間が短くなる場合があります。

	注意 警報器が約35秒に1回「ビビビ」、または約10秒に1回「ピ」と鳴動し警報音にあわせて光（赤色）が点滅している時は、必ず警報器を交換してください。
	注意 機器交換の目安を越えて使用すると、ホコリや汚れなどにより内部に煙が流入しにくくなり、火災発見が遅れる危険性があります。10年を経過した警報器は、ただちに新しい警報器と交換してください。

4 本警報器は自動試験機能を備えています。

■ 本警報器が正常に熱を感じできなかった場合、自動的に異常をお知らせします。④の自己診断・テスト方法を参照。

5 本警報器は屋内型であり、屋外では使用しないでください。

■ 日頃、人のいない部屋に設置する場合は警報音が聞こえるかどうかを確認しておいてください。

次のような場合、警報音が聞こえないことがありますので、ご注意ください。

- 就寝中、薬を服用していたとき
- 酒を飲んで就寝したとき
- ドアを閉め切っているとき
- 車の往来、ステレオ・ラジオ・テレビ・エアコンなどの音が大きいとき

2-2 使用上の注意 故障の原因となります。

次のような取り扱いはしないでください。故障の原因となります。

- 取付けベース内部の端子部に金属棒などを差し込まないでください。
- 本警報器を分解・改造しないでください。
- 本警報器を落下させたり衝撃を与えないでください。

3 本警報器が火災警報音「ピーピーピー、ピーピーピー、」（約4秒間隔）を発生し、警報音にあわせて光（赤色）が点滅している時

警報器が熱を感じると、上のような警報音と光の点滅で知らせます。

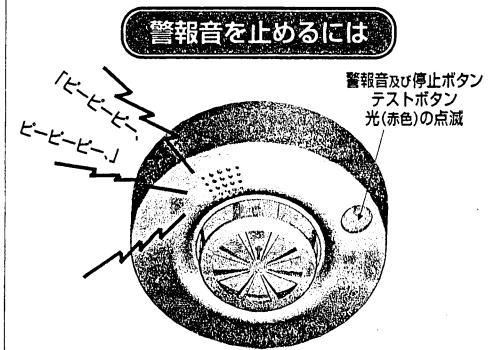
1 火災の場合

★ 火元を確認し、119番へ連絡するなど適切な処置を行ってください。すみやかに避難してください。

2 火災でない場合

★ 火災以外の原因でも、警報音が鳴ることがあります。その際、警報音停止ボタンを押すか、室内を換気する場合は自動的に警報音が止まります。あわてて警報器を外したり、電池を抜いたりしないでください。

	警告 警報器が「ピーピーピー、ピーピーピー」と約4秒間隔で鳴動したとき、電池を外さないでください。警報音停止ボタンを押せば警報音は止まります。熱感知部（サーミスター）に熱がこもっている場合、5分後再び警報音が鳴ります。換気などを行えば、警報音は自動的に止まります。（自動復帰機能付き）
--	--



1 警報器が「ピーピーピー、ピーピーピー、」（約4秒間隔）と鳴動しているときは警報音停止ボタンを押してください。警報音が停止します。

2 警報音が停止しても光（赤色）は（約4秒間隔）で点滅しています。

3 5分経過して光（赤色）の点滅が停止し警報音も鳴らない場合は本警報器は自動監視状態に復帰しています。5分以上経過して再度、警報音が鳴動する場合は、熱感知部（サーミスター）に熱がまだこもっています。うちわなどで風を送り、熱感知部を冷やしてください。温度が下がれば自動監視状態に復帰します。

4 自動監視状態に復帰後、警報器が正常に機能するか必ず④のテストボタンで確認してください。

4 自己診断・テスト方法（自動試験機能）

音による識別（音と同期の光（赤色）の点滅）	
●テストの場合	「ピーピーピー」（1回）
●正常でない場合	「ビビビ」（約35秒間隔に1回）
●火災警報の場合	「ピーピーピー、ピーピーピー、」（約4秒間隔）
●電池切れの場合	「ピ」（約10秒間隔に1回）

■ 取り付け後は定期的（1ヶ月に1度）にテストボタンを押して、警報器が正常に作動するか確認してください。

■ 正常な場合

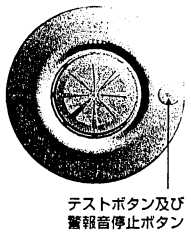
「ピーピーピー」と1回 警報音が鳴ります。同時に光（赤色）も運動して1回 点滅します。

■ 警報器が正常でない場合は

「ビビビ」（約35秒間隔に1回）という警報音と同期した光（赤色）の点滅でお知らせします。このような場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

■ 3日間以上留守にされたときは、警報器が正常に作動するかテストしてください。

■ 熱感知部にドライヤーで熱風を送り試験を行い、警報音停止ボタンにより警報音停止したときは、約5分間テストができなくなります。



	警告 テスト時にはライターなどの火を使用しないでください。警報器が壊れたり火災の原因となります。テストや点検時には高所作業となります。転倒、落下の危険があります。テストや警報音停止ボタンを押すときは、足下を安定して行ってください。
--	---

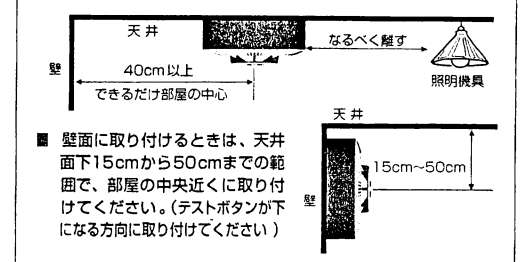
5 故障かな？と思ったら

警報器の症状とその原因、対処について下表に示します。下記の対処を行っても直らない場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。

症状	原因	対処
「ピ」と約10秒間隔に1回警報音が鳴る。警報音と同期の光（赤色）の点滅	機器交換の目安（電池切れ）または警報器の感度劣化です。機器交換の目安は約10年ですが、温度や湿度、ホコリなどの外部環境により短くなる場合があります。	新しい警報器と交換してください。新しい警報器の購入はお求めの販売店へお申し付けください。
「ビビビ」と約35秒間隔に1回鳴る。警報音と同期の光（赤色）の点滅	電池が接続されていません。または警報器の故障が考えられます。	電池コネクタが正しく接続されているか確認してください。または故障とおもわれる場合はお求めの販売店へご連絡ください。
火災でもないのに警報音が鳴る。	火災以外の原因で警報器が熱をキャッチしています。	調理の熱や蒸気が滞留していないか確認して下さい。警報音停止ボタンを押すか、警報器内の熱がなくなるまで約5分お待ち下さい。また火災以外で警報音が多発する場合は取付け場所を変えて下さい。

6 警報器の取付け場所と注意

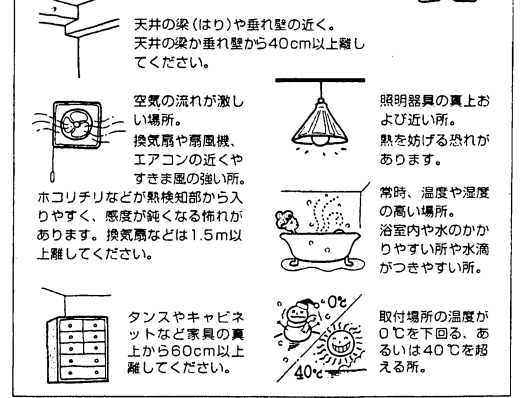
- この警報器はガス器具や電熱器の使用が多い台所への設置をおすすめします。
- 警報器のテストボタン（警報音停止ボタン兼用）が操作しやすい位置に取り付けてください。
- 天井面に取り付ける場合、壁や角から水平距離40cm以上離します。また照明器具からもなるべく離れたところで、なおかつ部屋の中心近くが望ましい。



■ 壁面に取り付けるときは、天井面下15cmから50cmまでの範囲で、部屋の中央近くに取り付けてください。（テストボタンが下になる方向に取り付けてください）

※設置および維持基準については、政省令で定める基準に従い、市町村が定める火災予防条例を確認してください。

次のような近くには取り付けないでください。



7 お手入れ方法

1年に一度は、水または石けん水を布に浸してよく絞り、警報器の汚れを拭き取ってください。この際、内部に水が侵入しないよう、また、熱感知部（サーミスター）に触れないように注意してください。なお、熱感知部に著しい汚れが付着している場合は、火災を感じできない恐れがありますので、機器を交換してください。

	警告 警報器を水洗いしないでください。また、中性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジンやシンナーおよびアルコールは使用しないでください。故障の原因になります。
	注意 警報器は精密に調整されていますので、改造や分解をしないでください。正常に作動しなくなる恐れがあります。